

日本のお米をまもり、未来につなぐ

全農パールライスは、「食」と「農」をつなぐ事業活動にとどまらず、「環境」や「社会」への貢献に向けたさまざまな企業活動に取り組んでいます。日本の主食であるお米を取り扱う企業として、これからも地球規模の環境保全へ積極的に取り組むとともに、様々な社会課題に真摯に向き合い、持続可能な未来へとつなげていきます。

【全農パールライスのSDGsへの取り組み】

The infographic features a central illustration of a rural landscape with a house, a building with the Pearl Rice logo, and a combine harvester. Four boxes highlight specific SDG targets:

- 農に関する取り組み (Agriculture):** 2 (食料と農業の持続可能な生産), 9 (産業と技術革新の高度化), 12 (つくる責任 つかう責任), 14 (海の豊かさを守ろう), 15 (陸の豊かさも守ろう)
- 食に関する取り組み (Food):** 2 (食料と農業の持続可能な生産), 4 (質の高い教育をみんなに), 8 (働きがいも経済成長も), 12 (つくる責任 つかう責任), 15 (陸の豊かさも守ろう)
- 環境に関する取り組み (Environment):** 7 (エネルギーをみんなにそしてクリーンに), 11 (住み続けられるまちづくりを), 12 (つくる責任 つかう責任), 13 (気候変動に具体的な対策を), 14 (海の豊かさを守ろう), 15 (陸の豊かさも守ろう)
- 基盤(社会・経済)に関する取り組み (Socio-Economic Infrastructure):** 1 (貧困をなくそう), 2 (食料と農業の持続可能な生産), 3 (すべての人に健康と福祉を), 4 (質の高い教育をみんなに), 5 (ジェンダー平等を実現しよう), 7 (エネルギーをみんなにそしてクリーンに), 8 (働きがいも経済成長も), 10 (人の潜在力を最大に発揮させる), 11 (住み続けられるまちづくりを), 12 (つくる責任 つかう責任), 13 (気候変動に具体的な対策を), 16 (平和と公正をすべての人に)

食 いつでも誰もが安心して食べられるお米の流通の実現

現代のわが国では社会構造の変化にともなって居住地の都市化が進展し、暮らしの核家族化や少世帯化が進んだ影響で、人々の食事から米食の機会が失われつつあります。当社は、お米の安定した調達、商品開発、品質の高い精米技術、世帯数に合わせたパッケージング、外食・中食等へのお米供給などの活動を通して、いつでも誰もが安心して食べられるお米の流通を実現し、日本の食生活安定に貢献しています。

課題



- ・日本の食生活安定に貢献
- ・ごはんビジネスの発展に貢献
- ・お米の消費拡大を目指した食育活動

取り組み例



・食品マネジメントシステム認証 (FSSC22000・精米HACCAP)の取得により、徹底した品質管理のもと、安全な食品を提供する



・日本の食文化の伝統を次世代に繋げ、お米の消費拡大を目指して、食育活動に取り組む



・お米の学習会や産地交流会を通じて、消費者に農業を学ぶ機会を提供する



・日本の食生活にかかせないお米の安定供給に貢献

農 人に社会に、魅力あるお米づくりを支援

当社は長年消費者の目線からごはん食のニーズと向き合い続けてきました。この独自の知見と最新機器を用いて、品質と歩留まりが向上する技術の開発や研究、環境保全型農業などを販売面から支援しています。この一連の取り組みを通じて、持続可能な稲作農業の推進、さらに、お米の輸出拡大を進めることで、日本産米のブランド価値向上を図ります。

課題

2 削減をゼロに



9 産業と技術革新の基盤をつくろう



12 つくる責任 つかう責任



14 海の豊かさを守ろう



15 陸の豊かさも守ろう



- ・国内の米生産農家の営農を販売面から支援
- ・環境保全型農業を取り入れ栽培されたお米の販売
- ・輸出拡大に取組み、持続可能な稲作農業の推進及び日本産米のブランド価値向上を図る

● 取り組み例



- ・有機栽培米やコウノトリ・トキを育む農法で栽培されたお米を販売することにより、環境保全や維持につなげる



- ・日本産米の海外輸出の継続と取り扱い数量の拡大を目指すことにより、水田を守り持続可能な農業を推進



環境 製造から販売までのすべてで環境に貢献

商品開発、製造の段階から、流通、販売と人々の手に届くまでのすべての場面において、CO2排出量の削減・抑制、自然エネルギーの利用と省エネルギー化、廃棄物の削減と再資源化、フードロスの削減に挑戦し、改善しながら、環境に優しい企業活動を推進します。

課題



- ・CO2排出量の削減や抑制に貢献
- ・自然エネルギーの利用と省エネルギーの実施
- ・廃棄物の削減と再資源化
- ・フードロスの削減

取り組み例



・バイオマスインキや環境配慮型容器の導入



・充電式フォークリフトの継続使用による温室効果ガスの低減



基盤 誰もが働きやすく、誰一人取り残さない社会を

当社はコンプライアンス関連の情報発信を適宜行い、遵法意識の高い企業活動を行います。就労場面においては業務の効率化と健康づくり支援を行い、働きやすく健康的な職場を確保します。人材の採用・登用では、多様な採用を取り入れ、女性活躍、障害者雇用を推進します。そして当社の食と農を通じた企業活動の社会還元として、「こども宅食」や「こども食堂」の支援、養護学校の研修受け入れや農福連携事業に参画し、誰ひとり取り残さない社会の実現を目指します。

課題



- ・コンプライアンス意識の啓発
- ・業務効率化の向上
- ・社員が働きやすく健康的な職場の確保
- ・多様な採用や女性活躍の推進
- ・誰一人取り残さない社会への実現

取り組み例



・農協観光が行う農福連携事業への参画による障害者雇用の新たな取組みの開始



・経済的に厳しいご家庭に食品を届けながら見守り、必要な支援につなげていく「こども宅食」事業に賛同し、文京区の「こども宅食」利用家庭へお米を提供

SDGsレポート

4つの大項目	課題	取り組み部門	取り組み・目標内容	SDGs17の項目
	ごはんビジネスの発展に貢献／日本の食生活安定に貢献	品質管理	食品安全マネジメントシステム認証（FSSC22000・精米 HACCP）の取得により、徹底した品質管理のもと、安全な食品を提供する	12 持続可能な消費を促す
		販売	日本の食生活にかかせないお米の安定供給に貢献	8 豊かにも豊かに暮らす 12 持続可能な消費を促す
	お米の消費拡大を目指した食育活動	管理	主食である「ごはん」を扱う企業として、日本の食文化の伝統を次世代に繋げ、お米の消費拡大を目指して、食育活動を年3回取り組む	2 気候変動に起因する食料・農業・漁業の持続可能な生産を確保する 4 質の高い教育をみんなに 12 持続可能な消費を促す
		販売	お米の学習会や産地交流会を通じて、消費者に農業を学ぶ機会を提供する	4 質の高い教育をみんなに
		販売	復元させた耕作放棄地での田植・稲刈体験、生物調査会の開催	4 質の高い教育をみんなに 15 陸の豊かさも守ろう
	国内の米生産農家の営農を支援	品質管理	品質分析データを有効活用した新システムの構築活動に参画	9 産業と技術革新の基盤をつくろう 15 陸の豊かさも守ろう
		製造	とう精技術の向上と精選機器の維持管理による統一的な高品質の製品づくり	12 持続可能な消費を促す 15 陸の豊かさも守ろう
	環境保全型農業を取り入れ栽培されたお米の販売	販売	瀬戸内海で育てられた牡蠣の殻=かきがらを有効利用した「瀬戸内かきがらアグリ」の販促を強化	14 海の豊かを守ろう 15 陸の豊かさも守ろう
		販売	有機栽培米やコウノトリやトキの育む農法で栽培されたお米を販売することにより、環境保全や維持につなげる	12 持続可能な消費を促す 15 陸の豊かさも守ろう
	輸出拡大に取組み、持続可能な稲作農業の推進及び日本産米のブランド価値向上を図る	販売	日本産米の海外輸出の継続と取り扱い数量の拡大を目指すことにより、水田を守り、持続可能な農業を推進	2 気候変動に起因する食料・農業・漁業の持続可能な生産を確保する 12 持続可能な消費を促す 15 陸の豊かさも守ろう
		販売	取引先を支援し、日本食の海外進出の拡大を目指す	2 気候変動に起因する食料・農業・漁業の持続可能な生産を確保する 12 持続可能な消費を促す 15 陸の豊かさも守ろう
	CO2 排出量の削減・抑制に貢献	販売	バイオマスインキや環境配慮型容器の導入	7 気候変動に起因する食料・農業・漁業の持続可能な生産を確保する 12 持続可能な消費を促す 13 気候変動に起因する食料・農業・漁業の持続可能な生産を確保する
		物流	配送業者および配送ルートの見直し、他社と共同配送の検討による物流の効率化	7 気候変動に起因する食料・農業・漁業の持続可能な生産を確保する 11 持続可能な都市とコミュニティ 13 気候変動に起因する食料・農業・漁業の持続可能な生産を確保する
		製造	充電式フォークリフトのみの使用継続による温室効果ガスの低減	7 気候変動に起因する食料・農業・漁業の持続可能な生産を確保する 12 持続可能な消費を促す
4つの大項目	課題	取り組み部門	取り組み・目標内容	SDGs17の項目

SDGsレポート



環境	自然エネルギーの利用 省エネルギーの実施	製造	太陽光エネルギーの継続使用	7 再生可能エネルギーに もつたアクション 11 気候変動に 適応する 12 つくべき責任 につかおう
		製造	工場照明などのLED化による省エネルギーの実施	7 再生可能エネルギーに もつたアクション 12 つくべき責任 につかおう
	廃棄物の削減と再資源化	管理 販売	電子システム等を活用したペーパーレス化に取り組む	12 つくべき責任 につかおう 13 気候変動に 関係する産業 15 陸の豊かさも 守ろう
		販売	東西事業本部の米袋統一及びアイテム集約・削減、米袋素材の見直し（ダウンゲージ）を行い、米袋ロスの削減、環境に配慮した容器を目指す	7 再生可能エネルギーに もつたアクション 12 つくべき責任 につかおう 13 気候変動に 関係する産業 14 海の豊かさも 守ろう
		販売	無洗米を販売拡大し、お米のとぎ汁における環境負荷の低減を目指す	14 海の豊かさも 守ろう
		製造	精米時に発生する糠や着色粒を廃棄することなく資源として有効活用	12 つくべき責任 につかおう
	製造	原料玄米で使用後の使用済みフレコンパックを再資源化及び再利用	7 再生可能エネルギーに もつたアクション	
フードロスの削減	販売	製造余剰などによる日切れ品の改善及び小ロット商品の集約により、製造効率の改善を図り、食品ロスを削減	12 つくべき責任 につかおう	
	製造	精米表示に関して、旬表示を活用し、計画的・効率的な製造による稼働時間の短縮及び、ロス米（日切れ・端量米）の削減	7 再生可能エネルギーに もつたアクション 12 つくべき責任 につかおう	
	販売	外食事業者などに対して、まとめて炊飯するオペレーションからこまめな炊飯へのアドバイスにより食味の安定とフードロスの削減を提言	12 つくべき責任 につかおう	
基盤	コンプライアンス意識の啓発	コンプライアンス	コンプライアンス関連の情報発信を行う	3 つくべき責任 につかおう 16 平和と正義を つたえよう
	業務効率の向上	管理	RPA や FAX の電子化、印鑑の電子化の導入検討、および、ワークフローの拡大による業務効率の向上を目指す	8 豊かになり 成長を促そう
	社員が働きやすく 健康的な職場の確保	管理	年1回の健康診断、ストレスチェックテストの実施及び健康指導、インフルエンザ予防接種の社内実施の推進	3 つくべき責任 につかおう 8 豊かになり 成長を促そう
		管理	農協観光が行う農福連携事業への参画による障害者雇用の新たな取り組みの開始	8 豊かになり 成長を促そう
		管理	残業時間の前年比1割削減、有給休暇計画取得の徹底	8 豊かになり 成長を促そう
管理	通年、軽装での業務取り組み（エコルック）の推進を進める	7 再生可能エネルギーに もつたアクション 13 気候変動に 関係する産業		

SDGsレポート

4つの大項目	課題	取り組み部門	取り組み・目標内容	SDGs17の項目
 基盤	社員が働きやすく健康的な職場の確保	製造	専門的技術習得のため、外部及び内部研修の実施による社員のスキルアップ	
		製造	労働災害防止に係る各種研修会を計画的に実施し、社員の意識向上、ヒヤリハット活動、リスクアセスメントの見直し及び5S活動の実施による労働災害の未然防止	 
		製造	計画的な製造ラインの修繕およびメンテナンスの実施により、設備事故の未然防止	 
	多様な採用や女性活躍の推進	管理	女性活躍推進法に関する行動計画を策定し、令和7年度末までに正社員における女性の管理監督者を5名以上とする取組みを継続して進める	  
		管理	経済的に厳しいご家庭に食品を届けながら見守り、必要な支援につなげていく「こども宅食」事業に賛同し、文京区の「こども宅食」利用家庭へお米を提供	   
	誰一人取り残さない社会への実現	販売	福祉団体やNPO法人への精米販売を通じ、食料支援が必要な生活困窮世帯への精米供給に協力	 
		販売	JAのネットワークを通して、県内の子ども食堂への精米供給ルートの開拓及び支援の仕組みを構築し、地域社会に貢献	 
		管理 製造	地域の養護学校と連携した就労体験（現場実習）の受入を1名以上行い、社会進出の支援を進める	  